

ごあいさつ

「医療崩壊」をテーマにした 特集・座談会記事を別刷りするにあたって

豊中市医師会

会長 児島 義介

豊中市医師会雑誌は、学術講演、医師会活動等の記録ならびに会員の投稿等による会員相互の親睦をはかる目的で年に1回発行され、今年で第48号を数えます。

本年は特集として「医療崩壊」をテーマに取り上げました。

市立豊中病院の先生方は各科別に顕在化した病院崩壊についての的確な分析と対応を、また会員からは多岐にわたる切り口による医療崩壊を提示してもらっています。

それらを踏まえた座談会では、市立豊中病院と医師会との病診連携ならびに地域医療への貢献が語られ、また今後ますます必要に迫られるであろう地域医療圏内での診療科別の集約化という問題提起もなされています。そうしたなかでも、特に医師が医療の内容や実情を、直接国民に対して伝えるべきを伝えてこなかったのではないか、という指摘がなされています。

一方、医療崩壊を阻止するためには政府、行政、マスコミはもとより国民一人ひとり、地域住民の理解と協力が必要不可欠となってきています。そこで「伝えるべきを伝える」という医師会側の発信として、この別冊を作成することにいたしました。

もとよりこの別冊の内容は、医師会員を対象としたいわば内向きのプライベートなものであり、また医療崩壊の全てについて語りつくしているわけでもありません。それゆえに、これらの内容がかえって誤解を生むのではないかと非常に危惧しつつ、しかしながらなお一層、最近の医療の実情の一端を率直にお伝えできるのではないかと考えました。

本別冊が医療に対するご理解の一助となり、医療復活のために少しでも貢献できることを願ってやみません。